

ごあいさつ

当法人が支援・推進している九州大学の久山町研究とその基盤である久山町の健診事業が2021年で60周年を迎えました。大学(研究・教育機関)と自治体がこのような長期にわたって連携し、学術的新知見の創出とともに地域住民の疾病予防と健康増進において多くの成果を収めているこのプロジェクトは、世界においても他に類をみません。また当法人は、久山町研究で培ったノウハウを活かして九州大学の臨床研究者と共同で、九州大学病院とその関連病院で治療を受けた脳卒中、腎疾患、糖尿病の患者様を対象とした大規模臨床研究を推進してまいりました。現在いずれの臨床研究もそれぞれの分野において代表的な研究プロジェクトの一つとして発展しています。

私たちはこれからも、国民の疾病予防と健康増進に少しでも貢献できますようさらなる努力を重ねてまいります。今後とも変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

代表理事 清原 裕

トピックス

久山町生活習慣病予防健診60周年記念講演会



西村 勝 町長 あいさつ



北園孝成 教授 あいさつ

1961年(昭和36年)から久山町と九州大学が共同で継続してきた久山町生活習慣病予防健診が60周年を迎え、2021年10月24日(日)レスポアール久山において、久山町生活習慣病予防健診60周年記念講演会が開催されました。この健診事業と久山町研究は、町、町内開業医と九州大学との連携により長期間にわたり地

域住民の疾病予防と健康増進をはかる、わが国のみならず世界的にもきわめてまれな取り組みです。これまでの久山町研究と健診事業の成果やこれからの町民の健康増進の在り方について、改めて久山町の方々へお伝えする機会となりました。



生活習慣病予防健診の関係者と健診最多感謝状を授与された住民の皆様

会では、西村 勝町長、北園孝成教授(九州大学病態機能内科学)のあいさつののち、二宮利治教授(九州大学 衛生・公衆衛生学)が、「生活習慣と認知症～60周年を迎えた久山町研究から～」と題して講演を行いました。参加された町民の皆さまへ、生活習慣病の対策が認知症予防につながることや、翌年度から健診にCT撮影を導入して健康管理にフレイル対策を新たに追加し、健康長寿社会の実現を目指すことなどをお伝えしました。



二宮利治 教授 講演



感謝状授与者代表 阿部敬子様(44回受診)

また、健診事業および久山町研究を支えてこられた町民を代表して、40歳以上を対象とした生活習慣病予防健診を40回以上受診されている19名に、西村町長から感謝状と記念品が贈呈されました。

■ 第13回久山町剖検者慰霊祭

2021年11月28日(日)レスポアル久山において、5年に一度の剖検者慰霊祭(第13回)が開催されました。

慰霊祭にはご遺族の皆様をはじめ、町内開業医の方々、九州大学久山町研究のスタッフなど92名が参列し、この5年間に病理解剖により医学の発展と人類の疾病克服に貢献された226柱の御霊のご冥福をお祈りしました。

ご遺族の皆様を前に、西村 勝町長が追悼の辞、久山町議会只松秀喜議長、九州大学二宮利治教授が慰霊のことばを述べました。



剖検者慰霊祭 会場



西村 勝 町長 追悼の辞

2021(令和3)年度の活動

1) 久山町健診事業・久山町研究

■ 健診事業

今年度の生活習慣病予防健診は2021年7月16日から9月27日までの計30日間、久山ヘルスC&Cセンターで行われた。コロナ感染予防のため健診は予約制とし、問診、身体計測、血圧測定、心電図検査、診察、検尿、採血、糖負荷試験、歯科健診を行った。40歳以上の受診者数は2,329名であった。

■ 血中脂肪酸と生活習慣病との関係に関する共同研究

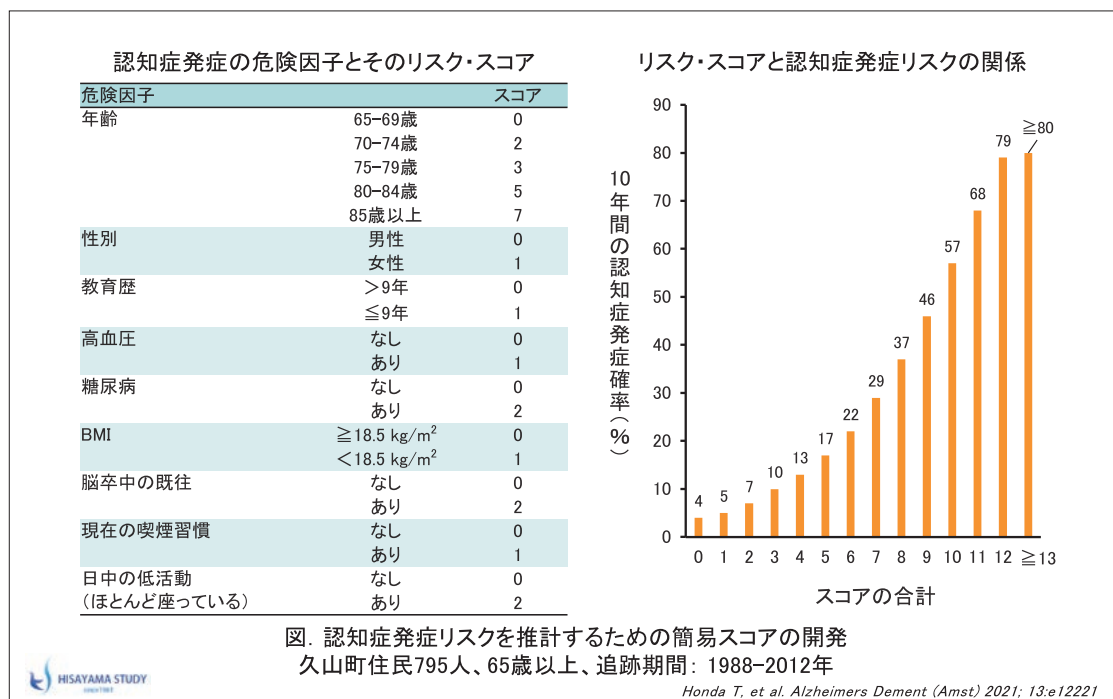
2011年3月より、持田製薬株式会社および九州大学との共同研究において、久山町の地域住民における血中脂肪酸と生活習慣病との関連について検討している。2021年度は、2012年の久山町集団において血清EPA濃度と心血管病発症の関係を検討し、本年度で共同研究を終了した。

■ 腸内細菌叢と栄養状態の関連に関する共同研究

株式会社明治および九州大学との共同研究契約において、2018年に腸内細菌叢研究に参加した1600人の腸内細菌叢データを用いて、腸内細菌叢と生活習慣病の関係を検討した。

■ 久山町疫学研究成果のITツールを活用した社会実装および疾患予防に関する共同研究

昨年度に引き続き、DeSCヘルスケア株式会社および九州大学との共同研究において、久山町住民を対象に久山町研究の成果を基に開発されたITツールを活用した疾患予防に向けた取組みを継続した。2021年度は、認知症発症のリスクスコアに関する論文と脳萎縮と認知症発症に関する論文を報告し、これらの成果の社会実装に関する検討を開始した。



65歳以上の久山町住民795人を24年間前向きに追跡し、健診項目(危険因子)から、10年間の認知症発症リスクを予測するモデルを開発した。そして、この予測モデルより各危険因子の認知症発症リスクの簡易スコアを求めた。このスコアでは、各危険因子のスコアの合計から10年間の認知症発症リスクを推計することができる。認知症発症リスクが高い人は危険因子を適切に管理することにより、将来の認知症発症リスクの低減が期待される。

■ 非侵襲皮膚カロテノイド値と野菜摂取量との関係に関する共同研究

カゴメ株式会社と中村学園大学との共同研究契約において、2020年度までに研究参加に同意いただいた久山町住民144名を対象として、秤量記録法による食事調査と光学式非侵襲皮膚カロテノイド測定装置(ベジチェック)による皮膚カロテノイド値測定を実施した。2021年度は非侵襲皮膚カロテノイド値と野菜摂取量の相関式を作成し、本年度で本共同研究を終了した。

■ 野菜摂取が疾患発症に及ぼす影響に関する共同研究

ヒュービットジェノミクス株式会社との共同研究契約において、野菜摂取が生活習慣病の発症や進展に及ぼす影響に関する検討を開始した。本年度は、1988年の久山町集団において野菜摂取と認知症発症に関する検討を開始した。

■ 尿中神経伝達物質と抑うつ症状の関係に関する共同研究

株式会社LSIメディエンスとの共同研究契約において、尿中神経伝達物質と抑うつ症状との関連に関する検討を開始した。本年度は、2012年の久山町集団の保存尿検体において神経伝達物質の測定を実施した。

■ 日本医療研究開発機構(AMED)認知症研究開発事業「健康長寿社会の実現を目指した大規模認知症コホート研究(JPSC-AD)」の支援

JPSC-ADは、全国8地域(青森県弘前市、岩手県矢巾町、石川県中島町、東京都荒川区、島根県海士町、愛媛県中山町、福岡県久山町、熊本県荒尾市)における地域高齢者1万人からなる大規模認知症コホート研究を設立し、統合された調査データを用いて認知症の危険因子を同定することを目的としている(研究期間:2016年4月~2026年3月)。さらにこのプロジェクトでは、従来型のコホート研究に、ゲノム・オミックスに関する基礎研究の手法と知見を融合させ、認知症の病態解明を図ることを目指している。2021年度は前年度に引き続き、上記の国家プロジェクト研究に参画しデータベースの構築・管理・整備の支援を行った。

■ 全国認知症コホート追加研究の支援

本研究では、九州大学等との共同研究契約に基づいて、上述の「健康長寿社会の実現を目指した大規模認知症コホート研究(JPSC-AD)」の調査対象者について質問票を用いた追加調査を実施している。それにより、認知症や心血管病などの疾患発症に及ぼす要因を明らかにすることを目的とするものである。2021年度は、本研究に参画し九州大学以外の施設のデータ収集・管理の支援を前年に引き続き行った。

(文責 二宮利治)



久山町研究スタッフ

2) 福岡脳卒中データベース研究 (Fukuoka Stroke Registry: FSR)

■ 多施設共通データベースを用いた脳卒中に関する臨床疫学研究

急性期脳卒中患者の前向き登録研究である福岡脳卒中データベース研究 (FSR) には、2006年7月から2019年9月末日までに17,074人の患者が登録されており、現在、九州大学病態機能内科学脳循環研究室が中心となってデータ管理や追跡調査が継続されている。当法人では、久山町研究の疫学・臨床研究のノウハウを生かしてFSRの支援を引き続き行った。

■ 脳梗塞におけるバイオマーカーの検証に関する共同研究 (VREBIOS)

FSRで行われた一連の共同研究 (REBIOS、REBIOS 2、R-REBIOS、VREBIOS) の継続研究として、FSRに登録された脳梗塞患者の臨床情報および検体を用いて脳梗塞の病態に関連するバイオマーカーの研究を実施している。本年度は、前年度に引き続き新規脳梗塞バイオマーカーの有用性に関する研究を田辺三菱製薬株式会社と行った。

(文責 北園孝成)



FSR研究スタッフ



追跡調査のようす

3) 福岡県糖尿病患者データベース研究 (Fukuoka Diabetes Registry: FDR)

糖尿病患者を対象としたコホート研究である福岡県糖尿病患者データベース研究 (FDR) には、九州大学病院および関連する糖尿病が専門の医療機関の計16施設に通院中の糖尿病患者5,131人が登録されている。2008年からの登録期間に、食事、運動、メンタルヘルスを含む臨床情報ならびに血液、尿、DNAを収集し、コホート集団として以後14年にわたり追跡調査を継続している。当法人は2021年度に、前年度に引き続き、九州大学病院および関連施設において緊密な連携のもと実施されている対象者の追跡調査を支援した。

(文責 大隈俊明)



FDR研究スタッフ

4) 福岡腎臓病データベース研究 (Fukuoka Kidney disease Registry: FKR)

当法人は、九州大学病態機能内科学(九州大学病院)およびその関連施設と共同で、腎臓病患者を対象とした臨床研究(福岡腎臓病データベース研究、FKR)を推進し、以下のプロジェクトを行っている。

■ 新規腎生検症例登録による腎生検コホート(FRBR)

九州大学病院および研究参加施設における新規腎生検症例のデータベースへの登録は2019年1月末に完了し、その総数は310人であった。2021年度は登録された症例の追跡調査作業を行った。

■ 保存期CKD症例登録による前向きコホート(保存期FKR)

2012年から2017年に4,476人の保存期慢性腎臓病(CKD)患者を登録した。2021年度は、登録された症例の追跡調査として引き続き各施設への定期的な臨床研究コーディネーター(CRC)の巡回体制を維持し、予後追跡作業、データ固定作業を進めた。

■ 既存腎生検症例による後ろ向きコホート

九州大学病院と関連施設において1995から2015年の間に生検により組織診断された腎疾患患者のうち、これまでIgA腎症1,500例、糖尿病腎症113例、巣状糸球体硬化症253例をFKRに登録した。2021年度はこれら対象患者の追跡調査を行った。

(文責 中野敏昭)



定例ミーティング



FKR研究スタッフ

尾前照雄先生を偲んで

私の恩師であり当法人の初代代表理事を務められた尾前照雄先生が2021年4月7日に逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表させていただきます。

尾前先生は、1950年に九州大学医学部をご卒業後、同第二内科に入局されました。医学部附属病院のインターン、大学院をへて1957年に腎臓病の研究で博士号を取得されたのち、米国Cleveland Clinicへ3年間留学されています。留学中に研究の領域が腎臓学から高血圧学へと広がり、帰国後は九州大学第二内科に戻られ、腎および高血圧性疾患の研究室を立ち上げられました。1971年に退官された勝木司馬之助 教授のご後任として第二内科の第5代教授に就任されました。日本高血圧学会の設立(1978年)に中心的な役割をはたされるなどわが国の循環器領域の学会をリードするとともに、第二内科において日本の腎・高血圧研究を担う多くの人材を育成されました。



尾前 照雄 先生

第二内科では、1961年に勝木教授によって久山町における脳卒中の疫学調査(久山町研究)が開始され、地域住民における脳卒中の実態が明らかにされました。尾前先生はこの研究を引き継ぎ、久山町研究を脳卒中の実態調査から高血圧を中心とした脳卒中の予防研究へと発展させておられます。その後、1983年に国立循環器病センター病院長にご就任、1990年より同センター総長、そして1995年より名誉総長を歴任され、世界的に活動の場を広げながらわが国の脳卒中を含めた循環器病学の研究を牽引し、その発展に多大な貢献をされました。その長年の功績により1999年に勲一等瑞宝章を受章されています。

尾前先生が福岡に戻られた2002年は、世界に先がけて久山町において地域住民を対象とした生活習慣病のゲノム疫学が開始された年でした。この時、尾前先生より、「これからは長年お世話になった町民の方々と大学の研究スタッフとの懸け橋となり、一兵卒として久山町研究の発展に少しでも役に立つことができれば幸いと思う。」という大変ありがたいお言葉を頂戴し、町の健康管理センターであるヘルスC&Cセンター長にご就任いただきました。大所・高所よりゲノム疫学研究の立ち上げに貴重なご意見をたまわり、このプロジェクトの推進に大きな力を与えていただきました。

久山町研究では、大学の研究者・町当局の方々・地域開業医の先生方の緊密な連携のもとで健診を行い、住民の皆様の医療データ収集と健康管理を行ってきました。尾前先生は、久山町研究と町健診事業の当事者との連携を深め、また、その経済的基盤を安定させるために、2005年に大学・久山町・地元医師会のメンバーを中心とした有限責任中間法人久山生活習慣病研究所を設立され、その代表理事として法人の維持・発展にご尽力されました。さらにこの法人において、久山町研究のノウハウを活かして九州大学病態機能内科学(旧第二内科)とその関連病院で治療を受けた脳卒中、腎疾患、糖尿病の患者様を対象とした大規模臨床研究の立ち上げを支援されました。現在いずれの臨床研究もそれぞれの分野において中核的な研究プロジェクトとして育っています。この法人は、2008年に一般社団法人に、さらに2013年にはその公益性を認められ公益社団法人へと発展し今日に至っています。尾前先生は、2014年に法人の会長職につかれ、2018年に顧問へと退かれましたが、つねに大局を見すえて進むべき道を的確に示し、私たちを導いていただきました。

尾前先生は晩年になられても勉学の意欲を失わず新しいことに挑戦する永遠の青年のような方でした。そのお姿を拝見すると、怠惰に流されがちなのが身を振り返り身の引き締まる思いがしたものでした。数々の業績を残され多くの人材を育成された偉大な方でしたが、日ごろは気さくにお話しくださり周りの人を温かく包み込むような包容力をお持ちでした。先生が残された多くの財産を大事に守り育てて次世代に受け継ぎたいと思っております。先生、長年にわたりご指導いただき大変ありがとうございました。ご冥福をお祈り申し上げます。

代表理事 清原 裕

役 員 (令和4年5月1日 現在)

■代表理事

清原 裕 久山町ヘルスC&Cセンター長
九州大学 名誉教授

■副代表理事

北園 孝成 九州大学大学院 医学研究院
病態機能内科学 教授

西村 勝 久山町町長

■常務理事

二宮 利治 九州大学大学院 医学研究院
衛生・公衆衛生学 教授

■理 事

飯田 三雄 九州大学 名誉教授

石橋 達朗 九州大学 総長

上野 道雄 国立病院機構福岡東医療センター
名誉院長

小田 義直 九州大学大学院 医学研究院
形態機能病理学 教授

角森 輝美 学校法人福岡学園 福岡看護大学
地域・在宅看護部門 教授

梶山 千里 公立大学法人福岡女子大学
最高顧問

中野 昌弘 国立病院機構福岡東医療センター
名誉院長

貫 正義 九州電力株式会社 相談役

■監 事

阿部 文俊 久山町議会 副議長

中西 裕二 中西裕二公認会計士事務所 所長

五十音順・敬称略

ご寄付をいただきありがとうございます

2021年度は、総額6,450,000円の寄付を頂戴しました。
この場をお借りして改めて感謝の意を表します。

(順不同)

個人 梶山 千里 様

松井 和弘 様

和田 美也 様

中村 晋 様

法人 社会医療法人雪の聖母会 聖マリア病院
理事長 井手 義雄 様

医療法人医心会 福岡腎臓内科クリニック
理事長 平方 秀樹 様

医療法人吉成会
理事長 吉成 元孝 様

医療法人いわい内科クリニック
理事長 岩井 啓一郎 様

当法人は、九州大学病態機能内科学ならびに衛生・公衆衛生学を中心とした臨床研究と疫学研究の成果を活用し、生活習慣病の予防と治療法の開発を通じて国民の健康福祉の推進に貢献することを目的としています。事業活動にご理解とご賛同をいただき、是非ご寄附をお寄せくださいますようお願い申し上げます。

なお、当法人への寄付金は、特定公益増進法人への寄付金として、所得税・法人税の税制上の優遇措置が適用されます。詳しくはホームページwww.hisayamalife.or.jpをご覧ください。